

第5学年国語科の実践

1 単元名 「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう ～百年後のふるさとを守る～」

2 単元目標

伝記の特徴を理解し、今の自分と関わらせながら読むことで、自分の生き方について考えることができる。進んでいろいろな伝記を読み、考えたことを工夫して交流し合うことで、自分の考えをより深め、広げることができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

授業の中で、ペアで、4人前後のグループなどでの関わり合いは自然に行うことができる。しかし、お互いの考えを聞くことに終わってしまうことがある。関わり合いを自分の考えに活かしていくことを指導の目標にしてきた。そこで他の人の考えにふれて自分の考えと比べ、再度考えてみる時間をとる工夫、そこで考えたことをノートなどにメモする工夫を行ってきた。

また、ある課題について話し合いが始まっていったとき、一部の子の発言で進みすぎることはないように、教師から意図的に質問したり、子どもの表情を見ながら「今、話し合っていることに、自分の考えがもっていますか？」と確認したりした。分からないことは素直に出していいこと、だれかの「？」がもう一度、学習の中身の本質を考え直すきっかけになることは伝えていった。

話し合いを子どもが進め、よりお互いの考えをしっかりと聴き、交流して、よりよい考えに高める経験をふむためにも、子どもが司会をしたり、相互指名に取り組んだりしてきた。

4 単元と指導について

①単元について	②指導について
<p><指導事項></p> <p>「読むこと」(1)オ 「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」の前提として「百年後・・・」で伝記の特徴を押さえた読み方を身につける。</p> <p><児童の学習経験></p> <p>これまでに人物の行動や気持ちを叙述に即して読み取ることや感想を発表し交流することは経験している。本単元では伝記を、できるだけ「自分の生活や考え方」と関わらせながら読み、今後の生活に生かそうとする考え方を経験させたい。</p> <p><読書という面から></p> <p>児童は物語、小説などフィクションの世界の本を好む傾向にある。この学習を通して、伝記の良さを知るだけでなく、ノンフィクションなど読書の幅を広げ、夏休みに進んで本を手取るような意欲や態度を養っていきたい。</p>	<p><伝記との関わりをもつ></p> <p>事前アンケートでは日常的に伝記を読む児童はほとんどいない。教科書の「百年後・・・」は昔の記述が出てきたり、歴史的背景があつたりするなど、語句が難解である。補足説明をしながら、人ごとでなく常に自分と対話しながら読み取るようにする。各自が伝記を選び、読む際には共感し、友達に伝えたいと思うことを深く考えるようにさせる。</p> <p><切実な問題とひびき合い></p> <p>学校図書館や市立図書館に出向き、目の前に並んだ伝記を手を取ったころは、単なる好奇心で読んでいるだろう。読後に自分との関わりで感想をまとめるときには、より深く考える必要性が出てくる。そして、周囲でいろいろな情報が飛び交い出すと、他の子はどんな伝記を読み、どう感じたのかが気になり始めると予想する。友達と伝記を紹介しあいたいという気持ちが高まることを期待し、ひとりひとりがしっかりと伝えられる方法をとることにする。相手の話にしっかりと耳を傾けることも意識させたい。伝え合いの中で、共感、疑問、自分の考え方との違い等に気づき、再度自分の考えを深めようとしている子どもの姿を、ひびき合う姿としたい。</p>

ねらい

- 伝記の特徴を理解し、今の自分と関わらせながら読むことで、自分の生き方について考えることができる。
- 進んでいろいろな伝記を読み、考えたことを工夫して交流し合うことで、自分の考えをより深め、広げることができる。

3・4年
「本はともだち」本の選び方
本の紹介の仕方・図書館の使い方

4年社会
地域のために偉業をなした人たち
「二宮金次郎」「川口広蔵」

5年道徳「いつも全力で」
不とう不屈 イチローの生き方

5年社会 北限の米作り 中山久蔵
理科 ふりの法則 ガリョー・ガリレイ

<読書の実態・傾向>

ある日の読書タイム：物語16人 学習漫画5人
伝記0人 こわい話など 8人

読書好きな子：20人 ふつう10人 きらい0人
読む本のジャンル：①物語②何でも幅広く③学習マ
ンガ④歴史・推理小説⑤その他⑥伝記・詩

日頃、「伝記」に親しんでいる子は少
ないといえる。好きなジャンルの本を
読み、幅が広がらない子が多いので
はないかと感じる。
伝記と自分との関わりを知り、広げて
みようかという意識付けをしたい。

ほかの教科でいろいろな「人」が出てきたけど、この絵本にもある人が出てきます

*絵本の読み聞かせ 「稲村の火」

教科書の本文が難解なので、まずは絵本でイメージをとらえるようにする。

五兵衛さんのモデルになった人を書いた伝記「百年後のふるさとを守る」を読んでみよう。

<読み取る内容> 儀兵衛がしたこと 儀兵衛の考え方 筆者が考える儀兵衛の業績の意味 文章構成

頭がいい。決断する力とか勇気がある人。自分のお金を出しただけでなく、村人自身が立ち直
るために行動を起こしたことがすごい。何十年も先のことを考えたのがすごい。村人の心を動
かせたのがすごい。何回も大変なことが起きたのにあきらめないことがえらい。

○○○

- ・こういう人がいたおかげで今があるんだな。自分も感謝されるような人になりたい。
- ・自分のことだけでなく、いろんな人のことを考えてみんなのために頑張ることってかっこいいな。強い人だと思う。
- ・社会で学習した金次郎や広蔵のこと、歴史上の人物も生きかたの手本になるんだな。だから学習したんだ。

伝記を読むよさは何だろう？ もっといろいろな人のことを読んでみたいな。

名言集などを提示し、自分の興味のある
分野の人物を選択できるようにする。

伝記を読む + 自分の考え・体験・知識

<自分の生き方を考える>

こうなりたい。このようにしたい。考えが変わった。
考えが深くなった。新しく知った。初めて考えてみた。

【指導事項】読むこと(1)オ「本や文章を読ん
で考えたことを発表し合い、自分の考えを広げ
たり深めたりすること。」

ほかの人が読んだ伝記のことも知りたい。交流する時間をとろう。

<交流のしかた> 人(名前や顔)・簡単な経歴・自分が考えたことの3観点で
自分の読んだ伝記の人物を紹介する。一番伝えたい人物についてはじめ、
他にもある児童は、続けて紹介する。

みんなの感想を聴いて、伝記のよさをもっと知ろう。そして考えたことを、これからの生活に生かそう。

- ・同じ伝記を読んだ人と考えたことが少し違っておもしろかった。
逆に同じところもあって、「そうだよな。」とお互いに思えて安心
した。うれしかった。
- ・伝記はあまり読んだことがなかったけど、事実だから、本当にあ
ったことだと思うとすごいな。尊敬できる。
- ・自分にはできそうにないけど、元気づけられるし、感動する。も
っといろいろな伝記を読んで知りたい。

夏休みも、物語だけでなく、ノンフィ
クション系の読み物や、伝記を選択
して読書活動を継続していけるよう
に声かけ、意識付けをしていきた
い。

6 本時について

(1) 目標

自分の読んだ伝記で感じたことを友達と交流し合うことで、自分の考えをさらに広げたり深めたりすることができる。

(2) 展開

学習活動	主な支援・留意点 【評価】
<p>1 本時の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">伝記を読んで感じたことを交流し合い、考えを深めよう。</div> <p>2 3人グループで交流し合い、助言などをする。</p> <p style="margin-left: 20px;">＜聴き方のポイント＞</p> <p>①伝記の人物について、主な功績を伝えることができたか。</p> <p>②自分が思ったこと、考えたことをしっかりと伝えているか。</p> <p>③聴いていて分からないことは後で質問する。</p> <p>④必ず感じたこと、アドバイスなどを言う。</p> <p>3 友達の考えを聴いて思ったことや考えたことを、ワークシートに書く。</p> <p>4 数名が発表する。</p> <p>5 伝記を読むことのよさを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までにノートや紹介カードに交流する内容をまとめておく。 ・時間の関係上、意図的な3人組を作り交流するようにする。実際の本を手に取りながら紹介してもよい。 ・自分の生き方（目標にしたい・あこがれ・大切な言葉・自分も取り入れたい・近づきたい）と関連して考えるようにさせる。 <p>【読・書】友達の感じ方との相違点・共通点を確認し、優れた表現を指摘する。</p>

7 実践を終えて

「伝記」との関わりが日常的には薄い子どもたちが、どのようにしたら興味・関心をもてるのかから単元がスタートした。単元導入時の教科書の伝記の内容は難しかったが、実際にあった話、本当にこんなすごい人がいた、という点を子どもたちは尊敬し、他にもどんな人が歴史をつくってきたのかという興味をもちはじめていた。校外の図書館にも出かけ、熱心に本を探し、読む姿があった。本時では読後に考えたことを交流する場面であった。本時の研究協議では、本時の課題について、よほど自分の選んだ伝記を読み込み、自分の考えを深めないと、「伝記のよさを知りたい・交流し合いたい」ということにはつながらないだろうという点が話題になった。本時における切実感が弱いものになってしまったのは、子どもたちの実生活と伝記上の人物の功績や時代背景がかけ離れすぎていることもあり、自分に活かそうとする思いの深まりや、他の友達の考えを聴いてみたくなる思いの高まりも弱かったからだと考える。伝記上の人物が功績にたどりつくまでのプロセスで、どう考え、行動したのかにもっと目を向けさせ、自分の生活と対峙させていくことで、より具体的で、今の自分の、そして将来の生活の参考になったかもしれないという意見をいただいた。また、紹介文を紙に書くときは、人物を象徴するキーワードのような言葉を例示し、子どもたちの目を引き付けるような工夫をするとよかったのではという意見もあった。表現方法の工夫により、もっと友達の考えを聴いてみたいという気持ちが高まりにつながり、ひびき合いの材料になったと考えられる。

成果としては、子どもたちが「伝記」に対して関心をもち、進んで読書する意欲が高まったり、読んだことを自分の

生活と照らし合わせ、自分の生き方に活かしていこうとする考え方をする経験になったりしたことである。また、考えたことを発信し、お互いに聞き合うことができたことである。課題としては、課題の切実さが弱いために、交流する場面の中で十分なひびき合いにまで高められなかったことがある。この単元での教師側の「願う姿」と、子どもたちの「思考の流れ・願い」を織り交ぜながら、もっとも切実な課題が生まれる場面はどこなのかを見極めていくことの大切さを痛感した。